

東京都立大学 大学院
経営学研究科 経営学専攻
経済学プログラム
修士（経済学）

M.A.E.C (Master of Economics)
Program

MEc Program Director

プログラムディレクターからのメッセージ



東京都立大学大学院 経営学研究科 教授
経済学プログラム (MEc) ディレクター

渡辺隆裕

近年、公務員やビジネスパーソンの中で「経済学」という学問を真に理解し、その専門性を身につけたいという声を耳にします。これを受けて東京都立大学経営学研究科では、博士前期課程（修士課程）に経済学プログラム (MEc) を 2018 年に開設しました。従来の学部卒業生や留学生に加え社会人もその対象に広げ、主に丸の内サテライトキャンパスで平日夜間および土曜日に講義を行っています。

私達のスタッフの多くは、これまで学術研究に携わり経済学や関連する分野の国際学術誌に論文を発表してきた研究者です。社会人を対象とした「学びの場」が東京には数多く存在する中で、私達にできることはあるのか。プログラムの開設にあたり、何度も議論しました。私達ができることは、学生に経済学の学術論文が理解できる力を身につけさせ、経済モデルの作成、データの分析、経済社会の事実の再検討などの演習を行い、それを通して修士論文の作成を指導する、という普通の大学院が行うことだけです。しかしこの当たり前の過程により、そしてそれによってのみ、経済学という高度な専門性が身につけ深い理解に到達できること、そして、それこそが経済学を真に身につけたいという人に必要なことである、という見解に私達は至りました。

経済学プロジェクトのカリキュラムでは、修士 1 年前期にコア科目としてミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学の基本をしっかりと身につけさせ、1 年後期以降の応用科目の理解や修士論文作成を行うというカリキュラムにしました。ヴァリアンやアセモグルなどのテキストは少し難しいのではないかと、満足してもらえるのか、という不安はありました。しかし、2020 年に初めて送り出した修了生からは「勉強は大変だったが、自分たちでは到達できないレベルに到達することができ満足できている」「しっかりと勉強できて良かった」という声を聞きました。この声に私達の考え方に間違いなかったのだろうと自信を深めています。

都心にあるという立地条件、高度な学術研究に携わってきたスタッフ、少人数教育による丁寧な指導、東京都の大学であるという公共性、これまでビジネススクールの高度専門職業人養成プログラムで培ってきた指導の経験と実績、これらの資源を持つ私達と、経済学を本格的に学びたいという高い志を持つ皆さんとがマッチングするとき、私達にも皆さんにも、そして社会にとっても良い結果をもたらすであろうと確信しています。

先に述べたように、本プログラムは既に社会人である方だけではなく、現在大学で学び、さらに経済学を深く学び探求してみたいと思う大学生にも門戸を開いています。将来ビジネスパーソンや経済の専門家としての活躍を望んでいる大学生にとっても、当プログラムに進学して得られる経済学の専門知識や現役の社会人とともに学んだ経験は将来の大きな糧になると我々は考えています。

熱意のある皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

東京都が 設置する大学院

東京都が設置する公立大学「東京都立大学」の大学院です。都民の方は入学金が半額となります。

丸の内に立地、 夜間に開講

社会人が学びやすいように、講義は主に平日の夜間と土曜日に開講され、働きながら学べます。

高い専門性の教員— 国際水準の 論文を発表

スタッフは国際学術誌に論文を公刊している高い専門性を持つ教員です。

少人数教育— 演習と 論文執筆が中心

少数の入学者に対して専任教員の丁寧な講義と演習が行われ、細やかな指導で修士論文の制作を行います。

近代経済学と 歴史からの 2つのアプローチ

数理モデルを使った分析を中心とする経済学プロジェクトは理系を含む多彩な人材を受け入れます。また経済史プロジェクトの教員が豊富なことも特長です。

他のプログラム との連携— 豊富なカリキュラム

経営学プログラム(MBA)、ファイナンスプログラム(MF)と連携し、さまざまな科目を履修することが可能です。

既設の MBA からのノウハウ

2003年に開設されたMBAプログラムからの10年以上のノウハウを引き継ぎ、社会人のための教育に向けてさまざまな工夫がなされています。

博士後期課程 への進学

経営学研究科経営学専攻の博士課程へ進学すれば、さらに高度な研究と博士号取得への道が広がります(入学試験があります)。

Project and Curriculum ●プロジェクトとカリキュラム

経済学プログラムに入学した学生は入学時に「経済学」「経済史」の2つの教育研究プロジェクトから1つを選択し、体系的に授業を履修します。

経済学	ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学を基礎にして、経済現象の理論分析、もしくは実証分析を行います。
経済史	歴史的事実の考察・分析や研究史の整理・批判をもとにして、経済現象を解明します。

1 年前期

経済学プロジェクトではマクロ経済学・ミクロ経済学・計量経済学を、経済史プロジェクトでは経済史概論・日本経済史を、それぞれコア科目と呼びます。1年前期は、このコア科目を学び、演習による徹底した理解を目標とします。経済学以外からの大学院進学者のためミクロ経済学概論・マクロ経済学概論という学部レベルでの補完講義も置いています。

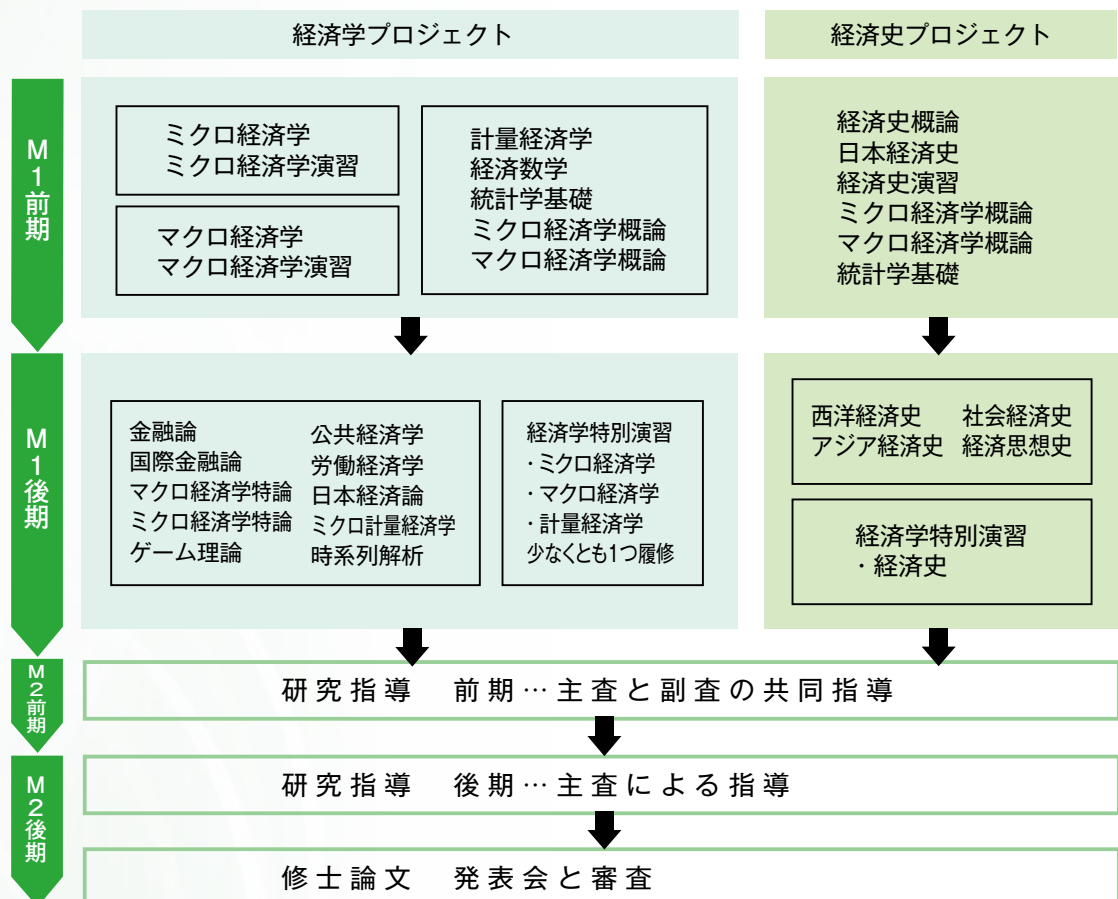
1 年後期

1年後期では、両プロジェクト共に経済学特別演習という少人数の演習を行います。学術論文を読んで発表し、それらの論文を応用した理論モデルの作成や経済データ分析などを行います。また、前期のコア科目を基礎として、経済学の様々な応用科目を履修します。

2 年

2年次は主に修士論文の制作に取り掛かります。前期までは主査と副査の共同指導により、広い視点からのアドバイスを受けます。後期は、主査による指導で集中的に論文を仕上げます。修士論文の発表会と審査を経て、学位を取得します。

経済学プログラム カリキュラムツリー



施設 ● Facilities



講義室 F



PC 教室



図書コーナー



共有スペース

授業開講時間

丸の内サテライトキャンパスでは平日夜間と土曜日に開講しています。

月～金 5時限……18:20～19:50

6時限……20:00～21:30

土 1時限……10:30～12:00

2時限……13:00～14:30

3時限……14:40～16:10

4時限……16:20～17:50

PC 教室

定評のある統計解析・数式処理およびデータマイニングのソフトを揃えた PC が準備されており、講義や自習に活用できます。また、日経 NEEDS Financial Quest などの経済・金融・企業財務に関するデータベースも利用可能です。

図書室利用

各講義に用いられるテキスト・参考文献を中心とした和洋専門書のほか、国内外の多数のジャーナルが開架されています。本学南大沢キャンパスおよび他大学所蔵の文献についても、貸出申し込みを行うことができます。そのほか、図書室では EBSCOhost (Business Source Elite)、Science Direct、Wiley Online Library、Web of Science などの各種オンライン・ジャーナルやデータベースが利用可能です。

膨大な学術文献を検索、閲覧、ダウンロードして研究をすすめることができます。

Faculty Member ●教員紹介 (2021年4月現在)

教員氏名・主な担当講義

研究教育内容と代表的論文

教授

飯星 博邦

- 計量経済学
- ミクロ計量経済学

ベイズ統計学に基づくマクロ経済モデルの実証分析を行っています。特にゼロ金利制約下での金融財政政策の効果の推定について研究しています。

(代表的論文) Estimating a DSGE model for Japan in a data-rich environment, (with Matsumae, T., Namba, R. and Nishiyama, Shin-Ichi), *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 36, pp. 25-55, 2015.

教授

飯村 卓也

- ミクロ経済学
- ミクロ経済学特論

需要理論、一般均衡理論、ゲーム理論などに現れる種々の均衡の性質等について研究しています。

(代表的論文) A study on the demand and response correspondences in the presence of indivisibilities, (with Zai Fu Yang), *Journal of Fixed Point Theory and Applications*, Vol. 6 No. 2, pp. 333-349, 2009.

教授

田中 敬一

- 経済数学

確率解析を応用した期間構造モデル・レジームスイッチングモデル等のファイナンス分野の研究を行っています。

(代表的論文) A Multi-Quality Model of Interest Rates, (with Masaaki Kijima and Tony Wong), *Quantitative Finance*, Vol. 9 No. 2, pp. 133-145, 2009.

教授

宮本 弘暁

- 労働経済学

労働市場のマクロ経済分析を理論、実証の両面から行っています。また、マクロ経済政策の効果についても研究を行っています。

(代表的論文) Productivity Growth, On-the-Job Search, and Unemployment, (with Yuya Takahashi), *Journal of Monetary Economics*, Vol. 58, Issues 6-8, pp. 666-680, 2011.

教授

村田 啓子

- 日本経済論

現代日本経済の様々な課題について実証的に研究し、政策インプリケーションを導いています。

(代表的論文) How Does the First Job Matter for an Individual's Career Life in Japan? (with J. Hamaaki, M. Hori and S. Maeda), *The Journal of The Japanese and International Economies*, Vol. 29, pp. 154-169, 2013.

教授

脇田 成

- マクロ経済学特論

マクロ経済の長期停滞と賃金設定の関係について研究しています。

(代表的論文) 日本の二部料金の賃金設定ルール - 名目賃金上昇の条件 -, 経済分析, 第191号, pp. 10-34, 2016.

教授

渡辺 隆裕

- ゲーム理論

ゲーム理論が専門です。最近では有限戦略集合のゲームの純粋戦略均衡の存在条件について研究しています。

(代表的論文) A Choice of Auction Format in Seller Cheating: A Signaling Game Analysis, (with Takehiko Yamato), *Economic Theory*, Vol. 36 No.1, pp. 57-80, 2008.

准教授

荒戸 寛樹

- マクロ経済学
- 国際金融論

マクロ経済学と情報の経済学について、理論研究やシミュレーションを行っています。最近では銀行行動にも興味を持っています。

(代表的論文) Japan's Intangible Capital and Valuation of Corporations in a Neoclassical Framework, (with Katsunori Yamada), *Review of Economic Dynamics*, Vol. 15 No.4, pp. 459-478, 2012.

准教授

小方 浩明

- 時系列解析

数理統計学、特に時系列解析、経験尤度法、方向統計学、コピュラなどの研究を行っています。

(代表的論文) Estimation for multivariate stable distributions with generalized empirical likelihood, *Journal of Econometrics*, Vol. 172 Issue.2, pp. 248-254, 2013.

准教授

松岡 多利思

- マクロ経済学
- 金融論

金融危機、バブル、金融政策に関する理論的研究を行っています。近年は金融自由化と金融危機の関係性に関心があります。

(代表的論文) Monetary Policy and Banking Structure, *Journal of Money, Credit and Banking*, Vol. 43 No. 6, pp. 1109-1129, 2011.

准教授

森本 脩平

- ミクロ経済学
- 公共経済学

望ましい制度の設計について検討するメカニズムデザインや社会的選択理論の研究を行っています。

(代表的論文) Strategy-proofness and efficiency with non-quasi-linear preferences: A characterization of minimum price Walrasian rule, (with Shigehiro Serizawa), *Theoretical Economics*, Vol. 10 No. 2, pp. 445-487, 2015.

教授

岩間 俊彦

● 社会経済史

近現代イギリスの都市、階級、組織について、史料分析だけでなく、世界史的視野で研究を進めています。
 (代表的論文) Shaping Civic Culture through Public Discussion: The Debating Societies of Birmingham, c. 1850 - c. 1890, *Midland History*, Vol. 41 No. 1, pp. 57-70, 2016.

准教授

井澤 龍

● 西洋経済史

歴史的アプローチにもとづく国際課税と多国籍企業について研究をしています。
 (代表的論文) Corporate structural change for tax avoidance: British multinational enterprises and international double taxation between the First and Second World Wars, *Business History*, pp. 1-24, 02 Mar 2020 (Published).

准教授

小林 延人

● 日本経済史

実証史学の立場から、幕末維新期の日本経済、とりわけ貨幣流通や商家経営について研究しています。
 (代表的著書) 『明治維新期の貨幣経済』東京大学出版会、2015.

准教授

竹内 祐介

● アジア経済史

戦前日本の植民地経済を研究しています。講義ではアジア地域内の関係性に注目して 400 年にわたるアジア経済の「発展」を扱います。
 (代表的論文) The Shifting Axis of Specialization Within the Japanese Empire, Minoru Sawai (ed.), *Economic Activities Under the Japanese Colonial Empire*, Springer, pp. 51-76, 2016.

修了生の声 ●

From Alumnae and Alumni

伊藤 篤

経済学プログラム (MEc) ・ 2018 年度入学
 金融機関勤務 (執筆当時)

理論的に一貫して突き詰めて考える

現在、仕事ではマクロ経済の調査・予測の仕事をしています。社会人としては一定期間仕事をしてきていたため、悪い意味で似た様なケースは漫然と「こなして」しまうことができるようになっていたと感じていました。一方で、2008 年の国際金融危機の様に全く新しいことや現代の金融政策の様な複雑な事象となると、分析が進まずに対応が難しいと感じることが多くなり、よりアカデミックな理論や分析手法を理解した上で議論できるようになりたいと思ったのが入学のきっかけでした。経済学プロジェクトでは、1年目の前半にミクロ・マクロ・計量経済学をコア科目としてしっかり勉強する機会があります。自分にとっては全般的な数学のレベルが高く、漫然と進められる仕事と異なり、体調やいろいろな面で良いコンディションで集中して頭をフル回転できる環境を整備しないと1ページも進まないほどハードでした。しかし、求めていたのはそうしたハードさであり、また少人数教育であるため、授業で取り扱うテーマも自分の興味に合わせてもらえる余地が大きく、そこで出た疑問点はほとんど質問して解消できたお陰で、非常に理解を深めることが出来たと感じています。

全く新しい出来事にも対応できるロバストな理論

1年目の夏からは論文を読み始め、2年目はほぼ修士論文の執筆でした。コア・コース履修前には全く読めなかった論文が少しずつでも理解できるようになり、非常に驚きました。働きながら論文に仕上げるのはもちろんハードでしたが、指導教官の粘り強いサポートのお陰でなんとか形にすることが出来、深く感謝しております。現在、日本を含め世界全体が新型コロナウイルス感染症によって大きな影響を受けており、同時に経済学の分野でも新たな研究が急速に進んでいます。まだ本格的なアカデミックなレベルではありませんが、少しずつこうした最先端の論文を読んで自分の仕事にも取り入れることが出来るようになっていたのは、このプログラムの成果と実感しています。コア・コースで学んだことは、すべて新型コロナウイルスの影響が拡大する前のことです。しかし、普遍的かつ基礎的な理論であるため、また応用余地も大きいのだと思います。漫然とした仕事や、分かりやすい知識だけ吸収していたのでは、今の様な仕事はできなかったと確信しています。今後は、まずは修士論文をしっかりとした論文に仕上げて、博士課程でも研究を続けたいと考えています。

Entrance Examination — 入試関連情報 —

以下の内容は現時点での予定であり、予告なく変更されることがあります。
詳細については、必ず公式の募集要項でご確認ください。

■ 募集定員（予定）

経営学専攻 50名（経営学プログラム・経済学プログラム・ファイナンスプログラムの合計）
経済学プログラムでは10名程度を予定しています。

■ 選抜方法（予定）

- ▶ 選抜は9月と2月に実施を予定しています。
- ▶ 選抜は、提出された書類（TOEFL/TOEIC/IELTSの英語成績を含む）と学力試験（筆答試験、口頭試験）の結果により総合的に判断し決定します。
 - ・日本語を母語としない方は、日本国際教育支援協会による日本語能力試験（JLPT）のN1の認定を受けている必要があります（旧試験の1級の認定を含む）。
 - ・英語を母語としない方は、英語外部試験（TOEFL、TOEIC、またはIELTS）のスコアレポートの提出が必要です。英語を母語とする方については、英語外部試験のスコアレポートの提出は不要です。
- ▶ 筆答試験には、試験日に受験場で受験する科目試験と、経済学検定試験などの事前に受験しておく外部試験があり、それらからひとつ以上の試験を受験する必要があります。
- ▶ 経済学プロジェクトの受験者は、科目試験では「数学」を受験すること、また、外部試験では「統計検定」（2級以上）および「経済学検定試験」（B+以上）の結果を提出すること、がそれぞれ可能です。
- ▶ 経済史プロジェクトの受験者は、科目試験では「経済史」を受験すること、また、外部試験では「経済学検定試験」（B+以上）の結果を提出すること、がそれぞれ可能です。

■ 納付金等（予定額）

入学金：東京都の住民…………… 141,000 円
 その他の者…………… 282,000 円
授業料（年額）…………… 520,800 円



AccessMap

東京都立大学 丸の内サテライトキャンパス

東京都千代田区丸の内1-4-1
丸の内永楽ビルディング18階
TEL. 03-6268-0521



入試関係のお問い合わせ先

東京都立大学管理部 | 文系学務課 経済経営学部教務係

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

TEL.042-677-1111（内線1715、1716）

入試関連等の情報は、ホームページにて随時更新して参ります。

<https://www.biz.tmu.ac.jp>

スマートフォン・タブレット
の方はコチラから

